

姉妹都市連携企画・  
門外不出の藤沢市コレクション

2018年8月 Vol.6

浮世絵館だより 特別号

編集・発行：藤沢市藤澤浮世絵館

# 江の島 浮世絵展

会場 松本市美術館 常設展示室 B・C

～信仰と観光の歴史～



The Collaborated Project of the Sister Cities: The First Exhibition of Fujisawa City Collection in Matsumoto 二代歌川豊国「名所八景 江ノ嶋晴嵐」

## SPECIAL EXHIBITION: ENOSHIMA ISLAND IN UKIYO-E HISTORY OF WORSHIP AND TOURISM

### 〈本展の紹介〉

この度、姉妹都市連携企画として、松本市、松本市教育委員会、藤沢市、藤沢市教育委員会の主催により「門外不出の藤沢市コレクション 江の島浮世絵展 ～信仰と観光の歴史～」を松本市美術館で開催いたします。

藤沢市では、郷土の歴史文化が描かれた浮世絵を収集してきました。本展では、その中から傑出したコレクションとして「江の島浮世絵」の数々を紹介いたします。

松本市と藤沢市は姉妹都市として、1961年以来、様々な交流事業を行ってきております。本展をととして、松本市民の皆様との今後一層の相互の文化交流につながることを願います。

### CONTENTS

#### 目次

- P2…江の島クエスチョン P3…弁才天の開帳と江の島浮世絵 / 見どころ紹介! 北斎派の江の島と摺物 P4…江の島へ群集参詣す!  
P5…江の島フォーエバー P6・P7…藤澤浮世絵館展示案内「やじきたが来た! 見た! 食べた? 藤沢・東海道の名所と名物」  
P8…藤沢市藤澤浮世絵館インフォメーション ONIKAGE 学芸員のページ / 展示予告 / 浮世場なれ / 編集後記



# 江の島クエスチョン

## 江の島はどんな島？

江の島は、藤沢市片瀬海岸の南方に砂州でつながる陸繋島です。島の大きさは周囲約5キロメートル、面積約0.38平方キロメートル、標高は約60メートル。神奈川県指定史跡名勝とされ、歴史や自然など、さまざまな文化財の宝庫です。そして豊かな海産物など名物も多く、藤沢市の観光シンボルと言えます。

## 江の島の誕生

江の島の誕生の由来は多々ありますが、永承2年(1047)天台宗の僧である皇慶により著された『江島縁起』では、欽明天皇十三年(552年)4月12日の夜から23日の朝まで大地が震動し、天女が十五童子を従えて現れ、江の島を造った」と記されています。地震とのかかわりは現実味が高く、浮世絵に江の島が描かれるときに散見できる左側の少し離れた場所にある聖天島は、関東大地震で隆起し、現在は江の島と陸続きになっています。例えば、掲載の図1の勝川春章の「相州江之島ノ風景腰越ノ方ヨリ見図」や図2の北尾重政の「浮絵江之島金亀山并七里ヶ浜鎌倉山之図」では、隆起前の聖天島の姿が描かれていることとなります。江の島の名前の由来もいくつかあり、「入江に隆起した島だから」「絵のように美しい島」「陸地とつながったかたちがひしゃくの柄のような島だから」などあります。本展をご覧いただくと、「絵のように美しい島」の説が有力に感じるかもしれません。



図1 勝川春章「相州江之島ノ風景腰越ノ方ヨリ見図」

## 江の島の歴史

江の島は古来から著名な僧などが修行をした場所としても知られます。江の島の外洋側にある海蝕洞である岩屋は神秘的な場所で、修験道の役小角や、空海、一遍、日蓮などの高僧も岩屋に籠り修行したとされます。P4の図2、歌川広重の「相州江の嶋弁才天開帳詣本宮岩屋の図」や、P5の図5、歌川国芳の「相州江之嶋之図」に岩屋の姿を見ることができます。時代は下り、鎌倉時代には源頼朝の命により文覚が弁才天を勧請し、弁才天信仰を集める地となりました。ここに現在につづく江の島の信仰と観光の歴史が本格的に始まったのです。

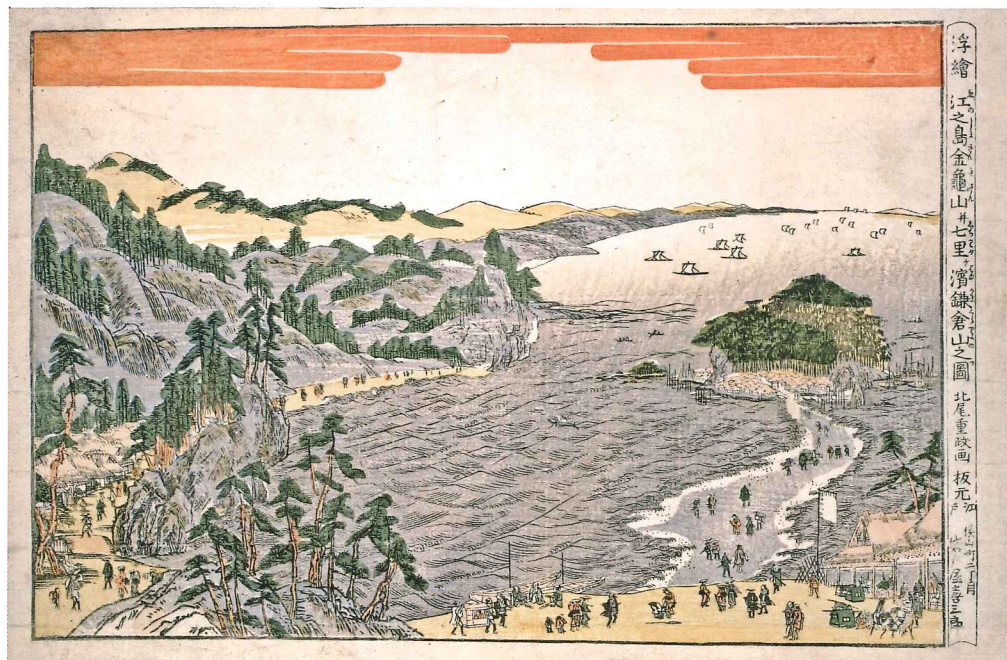


図2 北尾重政「浮絵江之島金亀山并七里ヶ浜鎌倉山之図」



図3 二代勝川春好(春扇)「江のしま」

# 弁才天の開帳と江の島浮世絵

江戸時代の文化年間(1804~1818)頃から江戸の庶民の間にも旅行ブームが訪れます。十返舎一九作『東海道中膝栗毛』が人気を博し、人々は伊勢神宮へと参拝する「お伊勢参り」に憧れましたが、やはり江戸からは遠いため実際には難しい道のりでありました。そのような中で、江戸から3泊4日の旅という程近い距離に位置し「風光明媚」と讃えられた江の島は、格好の旅行先として人気を集め、人々が江の島を参詣することを「江の島詣」と呼ぶようになります。



喜多川歌磨  
「風流四季の遊 弥生の江之島詣」



喜多川歌磨「題名不詳(江の島弁才天開帳)」



歌川国貞(三代豊国)  
「題名不詳(弁才天と北条時政)」(部分)

江戸時代の江の島は、本宮・上宮・下宮の3ヶ所で弁才天が祀られており、巳年と亥年に当たる年(6年毎)に順番で開帳が行われ、その参詣の様子は浮世絵に多く描かれました。江の島は、技芸をつかさどる弁才天が祀られていることから歌舞音楽に関わる人々の信仰を集めました。浮世絵にも江の島に向かう女性の姿が多く描かれ、絵柄の華やかさも江の島浮世絵の特徴の一つです。



吉田蘭香「江之島金亀山三宮細見之図」

見どころ紹介!

## 北斎派の江の島と摺物

数々の傑作を残した浮世絵師、葛飾北斎。江戸時代においてもその画風を慕った絵師は多く、「北斎派」(または「葛飾派」とも)と呼ばれる一派を形成し、江戸のみならず名古屋や京都の絵師もそれに加わりました。北斎派絵師の傾向として、私家版として配られた「摺物」と呼ばれる作品を中心に制作としたことがあげられます。

摺物は多色摺り木版画ですが、狂歌師や俳諧師等によって個人的に作られ、仲間内において配られる浮世絵でした。一般売りされる「錦絵」は採算を取ることが重視されますが、摺物はその必要がなかったため、安価な錦絵には見られないような特殊な「彫り・摺り」の工夫がなされていることが特徴です。

本展では北斎派の摺物作品を多数ご紹介します。その中でも「江島記行」のシリーズは、北斎の筆頭弟子であった魚屋北溪の代表作品の一つに挙げられます。北溪による洗練された構図の絵はさることながら、高い技術を用いた彫りによって生み出される繊細な線や、空摺(絵具を用いない、凹凸のみで形を表す技法)等の摺りの技術、そして金泥・銀泥といった絵具がふんだんに用いられている点も見どころです。ぜひ作品に一步近寄り、摺物特有の彫り・摺りの美しさや、絵具のきらめく様子をご覧ください。

葛飾北斎「題名不詳(七里ガ浜)」

北斎による摺物。北斎は、画業中期において摺物を多く手がけました。本作には人物や背景に繊細な描写がみられます。



魚屋北溪「江島記行」より  
(上)「六郷」(下)「下宮」  
「六郷」では雨の線に銀泥が、「下宮」には亀の甲羅に金泥と銀泥が用いられています。

## 江の島へ群集参詣す！

江戸時代の後期になると、江の島は江戸に近い手頃な行楽地として、弁才天信仰と合わせて人気を集め、江戸の人々の間で講中を組んで参詣することが盛んになりました。特に6年に一度（巳年と亥年）の開帳の時は大勢の参詣人で賑ったといわれます。

図1は、歌川広重「相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図」です。『武江年表』に「嘉永四亥年（1851年）の二月一八日より百日間窟弁才天の開帳があり江戸より参詣人多し」とありますが、まさにその賑わいを彷彿とさせる艶やかな作品です。描かれているのは、江の島へ向かう音曲（音楽を用いた芸能）講中の女性たちです。江の島弁才天は琵琶を持った姿で、歌舞伎なども含めた音曲全般の信仰を集めていました。画中の女性たちは、揃いの日傘で描き分けられています。中央の列の先頭は「三本の杵」の江戸長唄杵屋、それに続く「菱に三つ柏」は清元節、その左は「角木瓜」の常磐津節、画面右の「桜草」の一群は富本節の人々です。



図1 歌川広重「相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図」



図2 歌川広重「相州江之嶋弁才天開帳参詣本宮岩屋の図」



図3 歌川国芳  
「七里ヶ浜より江のしまの遠景」

図2は、同じく広重が同時期に描いた「相州江之嶋弁才天開帳参詣本宮岩屋の図」です。江の島を海側から描いたもので、訪れた参詣客の三々五々の動きが見て取れます。よく見ると、女性たちの傘の柄は図1に描かれていたものと同じで、続編といったところでしょうか。右端の岩屋（洞窟）の手前の「まな板岩」では赤い毛氈が敷かれ、釣りをする姿も見られます。

図3は、国芳が描いた七里ヶ浜を舞台にした美人画です。3枚続きの左2枚に描かれた裸足の3人は地元の漁師（海女）で、右に描かれた人々は行楽客。この画は観光ポスターの役割もはたしていて、海女は大きなアワビや伊勢海老などを自慢げに持って海産物のPR。右の手前の女性の浴衣には大きな海老の柄が染め抜かれているのも粋な意匠です。

図4も国芳で、「山海名産尽」シリーズの一枚として、「富士、日の出、江の島」というおめでたい吉祥図を背景に、名産のカツオの水揚げを描いています。

図5では、国芳は洋風表現を採り込んで江の島全体を大きな塊として描いています。圧倒的な迫力の画中に、岩場をめぐる人びとを蟻のように小さく書き込み、名所絵にとどまらない大胆な作品となっています。

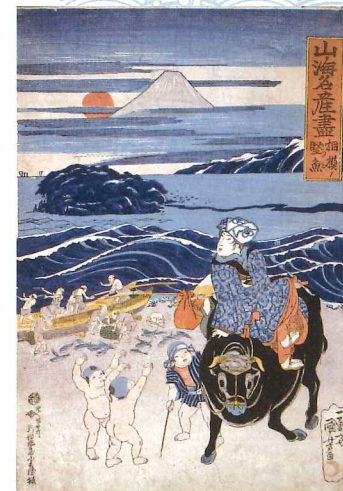


図4 歌川国芳「山海名産尽相模ノ堅魚」



図5 歌川国芳「相州江之嶋之図」

## 江の島フォーエバー

文明開化を経て明治時代以降は、他の版画技術や写真技術の台頭により、木版画技術の浮世絵は、主流から追いやられていきました。しかし「最後の浮世絵師」とも称される小林清親や新版画の旗手である川瀬巴水も描いているように、芸術家にとって江の島は時代が変わっても、人々が記憶に留めたい美しい風景として生き続けています。

下部に☆マークで示した作品は、藤沢出身の画家TETTA氏の作品です。これは、今回出品されている三代歌川国貞の白浪五人男の場面を描いた浮世絵からインスパイアされた作品です。江の島浮世絵は現代でも芸術家たちに刺激を与える存在として新しい表情を見せています。



小林清親  
「日本名勝図会 江の島」



川瀬巴水「相州七里ヶ浜」



三代歌川国貞「横島鹿子振袖」(白浪五人男)



☆TETTA「VENTEN 娘女男白波」(ミクストメディア/2014)

## 展示案内

やじきたが来た! 見た! 食べた?

# 藤沢・東海道の名所と名物

〈会 期〉2018年9月8日(土)~11月4日(日)

「弥次喜多」でお馴染みの名キャラクターは、江戸後期に出版された十返舎一九作『東海道中膝栗毛』に登場し、今日に至るまで人々に親しまれています。その人気を裏付けるように、「弥次喜多」を用いたリメイク作品が続々と出版され、それらは「膝栗毛物」と呼ばれました。今展では、文を仮名垣(鈍亭) 魯文、絵を落合芳幾が担当した『東海道中膝栗毛弥次馬』を中心に、幕末の東海道の名所や名物などを紹介します。



大磯

### 鳴焼き

鳴焼きといえば、ナスの焼き物ですが、大磯の名物ではありませんでした。大磯の名所「鳴立沢」と「鳴焼き」をかけたのでしょう。



由比

### 富士山

薩埵峠から眺める富士山は今も変わらぬ景勝地です。喜多八は名物のサザエに指をはさまれています。



二川

### 柏餅

柏餅の発祥の地と伝えられる猿ヶ馬場で、その伝承通りのサルの顔に似た老婆に柏餅を買うよう強く勧められています。



石薬師

### 焼きめし

焼きめしは、焼いた握り飯に味噌をつけたものです。店先で犬が狙っています。



神奈川

### 人穴

横浜市西区の浅間神社の境内にある横穴は「富士の人穴」といわれ、富士山のふもとに繋がっているという伝説で知られていました。



京

### 珍道中

弥次喜多の二人は、口を開けば冗談ばかり、歩けば悪戯ばかり、と各所で騒動を巻き起こしながら旅を続けます。

桑名

### 焼き蛤

「その手は桑名の焼き蛤」のシャレ言葉で知られる桑名の名物・焼き蛤です。欲張った喜多八は手ごと挟まれています。



小田原



歌川国貞(三代豊国)  
「東海道五十三次之内 府中 喜多八」



歌川国貞(三代豊国)  
「東海道五十三次之内 江尻 弥次良兵衛」

## 旅行ブームの立役者?!

東海道を旅するゆかいな二人の主人公「弥次喜多」が交わす冗談交じりの生き生きとした会話や、描かれる街道の人々の様子は、旅をしたことがない人にはあこがれの情景であり、旅をしたことのある人には見知った土地や食べ物を思い出すものとなり、読者それぞれに思い入れのある作品だったことでしょう。



歌川国貞(三代豊国)  
「東海道 原」(部分)



歌川広重  
「東海道五十三次 二川」  
(部分)

## 弥次喜多を探せ?!

ゆかいな二人組の代名詞ともなっている「弥次喜多」ですが、二人の姿は他の東海道作品にも見ることができます。



歌川芳員  
「東海道五十三次之内 岡部」(部分)



藤川為信  
「東海道名所膝栗毛画帖 藤沢」  
(部分)



歌川広重  
「東海道五十三次図会 藤枝  
嶋田駅 金谷」(部分)

## 双六でみる弥次喜多の旅



「東海道五十三次 弥次喜多双六」(表紙)  
大正13年(1924)

街道を一覧できるものとして「道中双六」も多く発行されました。双六は古来から遊戯として江戸の庶民にも定着していましたが、東海道の各宿場の名所絵や弥次喜多の道中を描いたものなどが広く受け入れられました。



「東海道五十三次 弥次喜多双六」



ONIKAGE 学芸員のページ

## 浮世絵の貸借

浮世絵館では、収蔵品展だけでなく、浮世絵や資料をお借りすることがある場合がございます。昨年は、「GAS MUSEUM がす資料館」や「公益社団法人川崎砂子の里資料館」から浮世絵をお借りして、浮世絵館所蔵品とあわせて展示をいたしました。

貸借は、まず、借りたい企画を練るところから始まります。そして、借りることが可能かどうか資料や展示環境の現状を調査いたします。「持ち主に現状のまま返せるよう管理することができるか」が、ポイントでございます。退色、傷み、補修の跡を細かく調査したことを調査用紙に記入・撮影して記録します。

作品の運搬は普通のトラックではなく、美術品運搬のプロの運送屋さんが運びます。浮世絵版画は、手作業による作品制作ですので、まったく同じ摺り・保存状態の作品は存在しないと言って過言でなく、万が一の事故に備えて保険もかけます。

展示期間中はたくさんのお客様が来館されますので、環境や防犯に気を遣い、借用中は気が休まりません。無事に返却できた時は、心からホッと胸を撫でおろすのでございます。ほつ。



藤澤浮世絵館

松竹大谷図書館所蔵

くみ あげ どう ろう

展示  
予告

## 3D浮世絵 歌舞伎組上燈籠の世界

会 期：2018年11月10日(土)～12月9日(日)

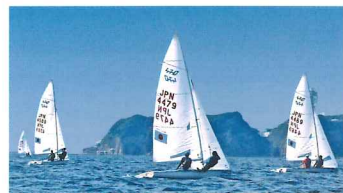


作者不詳「菅原天神記車引組上ケ五枚続」  
所蔵：松竹大谷図書館

浮世絵は、平面だけでなく、紙面を切り抜いて、模型のように組み立てる「組上燈籠」と呼ばれる作品も盛んに作られました。本展では公益財団法人松竹大谷図書館の所蔵作品も織り交ぜ、歌舞伎の舞台を取り上げた作品を中心に機知に富んだ現代での3D表現とも呼べる浮世絵の楽しみ方をご覧ください。

## 編集後記

藤沢市では、郷土の歴史文化が描かれた浮世絵を長年、収集してまいりました。その多くが、本展のテーマでもある「江の島」の景色や参詣の様子、風物を描いた浮世絵です。本展では、頻繁に描かれるようになった初期の作品から、幕末の群集が訪れた時代の作品を中心に紹介しました。浮世絵に描かれた姿は現代にもつながり、江の島は、藤沢市の観光名所として国内外から多くの観光客を迎えています。また、江の島は、1964年の開催に続き、東京2020オリンピック競技大会セーリング競技会場となります。今後、国際的にも郷土文化を発信する契機にあたり、松本市との交流というお力添えをいただきましたことに感謝申し上げます。



江の島を背景に行われる  
セーリング競技

## 編集・発行：藤沢市藤澤浮世絵館

【住 所】 〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台2丁目2番2号ココテラス湘南7階

【電 話】 0466-33-0111 【FAX】 0466-30-1817

【開館時間】 10:00～19:00 (入館は18:30まで)

【休館日】 月曜日(祝日、振替休日の場合は翌平日)

※その他、展示替えのために休館日がございます

【HP】 [藤沢市藤澤浮世絵館](http://www.fukuzawa-ukiyo-e.com) で検索

